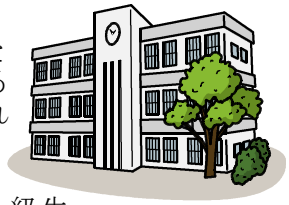
生徒指導だより「こころ」

平成２９年１月１１日（水）
NO.１６　文責　堀　晴昭

０学期スタート



あれ？３学期の間違いじゃないの？と思われたことでしょう。この３学期は１年間のまとめの学期であると同時に新学年の準備の学期でもあるのでこう呼ばれたりもします。

３年生は、高校生活や将来を見通した生活や学習ができていますか。２年生は、４月から中学校の最上級生であり、学校のリーダーです。また、受験生と呼ばれるようにもなります。勉強も部活動も真剣にがんばっていますか。１年生は、いよいよ先輩と呼ばれるようになり、中堅学年として３年生を支え、１年生にいろいろなことを教えていかなければなりません。その準備はできていますか。１月は「行く」、２月は「逃げる」、３月は「去る」と言われるようにあっという間に過ぎていきます。１日１日を精一杯がんばり、成長ある３学期にしてください。

もったいないなあ。今日のこの授業は最初で最後なのに・・・。もう二度と戻ってこないのに・・・。
「夢は逃げない。逃げているのはキミだ！」

あきらめない心〈小野道風（おののとうふう）と蛙（かえる）〉

小野道風は、平安時代の書道家です。道風はある時、書道をやめようかと思うほどのスランプに陥りました。自分はただ中国の字を真似ているだけで才能がない。自分の字が書けないと自分を責めていました。筆を持つ気にもなれず、庭を散歩していた時のことです。池のほとりの蛙（かえる）が柳の小枝にとまっている虫を狙っています。何度も柳に飛びついては、失敗して池に落ちていました。「駄目なことは何度やっても駄目なんだ。私も蛙（かえる）も・・・」と、道風がその様子を観察していると、何度も何度も挑戦しているうちに、ついに蛙（かえる）は柳の小枝に飛びついて、虫を捕まえたのです。

この蛙（かえる）の姿から「あきらめては駄目だ。いくら時間がかかっても辛抱強くがんばろう」と再び筆をとり、毎日あきらめずに字の練習を続けました。やがて自分の字を確立し、三蹟の一人として後世に名を残しました。

※三蹟＝書道の大御所三人（小野道風、藤原佐理、藤原行成）のこと

確かにいろんな有名人の伝記などを読むと、たくさんの失敗や挫折を乗り越えて成功を収めています。順風満帆な人生はないですし、そういう人はいないのです。あきらめたらそこで終わり、根気強く続けるしかないのです。みなさん、何事にもチャレンジする、そしてあきらめない３学期にしましょうね。

人の気持ちがわかる人に（生活に）

２学期末の職員の反省で「言葉遣いがまだまだ悪い」「室内での過ごし方が悪い」などの意見が出ました。早速３学期の始業式で生徒たちに話をしたわけですが、できていない生徒はごく一部の生徒です。「あっ私だ！」「正そう！」と思ってくれれば、そこに成長があり、うれしいわけですが、なかなかそううまくはいきません。「礼儀知らずは恥知らず」というように意外とできていない人は気づかないようです。「人に迷惑をかけて悪かったなあ」「こんなこともできないなんて恥ずかしいなあ」と気づいてほしいと思います。どの生徒も家での生活の中で大なり小なり家族にさえ気を遣って生活をしているはずです。なぜ大集団で生活している学校で気が遣えないのだろうかと不思議に思います。今一度自分の言動を振り返り、それを３学期に生かしてもらいたいです。

「テストで１００点とっても、人の気持ちや人への迷惑が分からない人間は、人として０点である。」

無言掃除の意味

これもまた２学期の反省で出たのですが、無言掃除についてです。掃除時間は確かに静まりかえり、以前と比べると随分よくなっているように感じています。しかし、見回ったり、耳を澄ませていると小さな声が聞こえてきます。ここでもう一度「なぜ無言掃除なのか」を確認したいと思います。中には「話をしてもやるべきことをやればいいじゃないか」「話ができないなんて掃除がしにくい」と思っていることでしょう。しかし、そういうことではないのです。掃除を通して「心を育てる」ということが目的なのです。

それでは「無言掃除」でどんな力がつくのでしょうか？以下のような５つの心が育成されると言われています。どれも大事な力（心）です。ぜひ、「無言掃除」で育んでほしいと思います。

①我慢する心
②気づく心
③思いやりの心
④感謝する心
⑤謙虚な心

無言掃除ができていない人は、この５つの心のどれかが欠けているのでしょうね。
ぜひ、掃除で育んでください。